

## 令和元年度朝霧野外活動センター指定管理者候補者選定委員会（2次審査）議事録

日 時 令和元年10月15日(火) 午後0時30分から午後3時  
場 所 県庁西館4階第1会議室B  
出席委員 松永委員長、松井委員、阿部委員、山田委員、  
長澤委員、山下委員（脇坂委員欠席）  
事務局 社会教育課青少年育成班（洞口班長、山下教育主査、中野主査、中村主事）

※ 2次審査は、プレゼンテーション、ヒアリングによる審査である。

### <日本キャンプ協会>

#### ※ プレゼンテーション（30分）省略

##### ー ヒアリング要旨 ー

（委員）アの「基本方針」とイの「施設の効用を最大限に発揮できる事業計画」に絡めて質問したい。朝霧でしかできないことをきちんと検討した提案がされているかという視点で見たときに、プラネタリウムとアイススケート場を活用しないで、もっと朝霧という土地の持つ魅力に包括した事業を展開した方が良いのではないかと感じているが、どのように考えているか。

（申請者）・県からお借りしている施設を活用しないとまずいと考えている。それ以外の事業を展開していくとなると、利用団体も多いため、人的な配置もかなり大変で、職員自体がそこまで手が回ってない状況である。閑散期であれば、考えられなくもないが、冬の時期は別の障害が出てきてしまう。

- ・朝霧高原の自然の魅力を活用する事業としては、ナビゲーションスポーツ構想がある。これまでは、主催事業という形で提供してきたが、次の5年間は今まで蓄積したノウハウを利用団体にも提供していきたいと考えている。
- ・朝霧は星空が大変よく見えるので、プラネタリウムに頼らず、直接体験という形でその機会を提供していきたいと思っている。色々な形で複合的に取り組みながら、プラネタリウムも活用していきたい。

（委員）小中学校の施設の利用について質問する。今後、キャンプ場よりも宿泊棟を希望する学校が増えていくことが考えられるが、キャンプ場を有効に活用していく対策を教えていただきたい。

（申請者）・小学校は、宿泊棟を利用しながら、プログラムの一部としてキャンプ場を使いたいという意見が増えているので、柔軟に対応したいと考えている。一方で、少年団体については、まだまだキャンプ場を使いたいという意見をたくさんいただいている。

- ・主催事業の中で提案している不登校や引きこもりの青少年対象の事業は、キャンプ場を活用しながらやっていきたい。
- ・今後、急激にキャンプ場利用が減っていくことはないと考えているので主催事業を活用しながら、その中で、キャンプ場の使い方もしくは自然体験活動の魅力について提案をするという形で活用できたらと考えている。

(委員長) 情報発信のところで質問する。富士宮市内の小学校1校1校に広告物を持って行かれているようだが、費用対効果はどのようなものか。また、情報社会の今、ネット予約や、メディアを使った情報発信ということも併せていくとより効果的と思うが、そのあたりの展望はどのように考えているか。

(申請者) ・全国ベースで広報する場合は、ネットだと思うが、地元の人への広報は、紙の広報物が一番有効的だと考える。費用対効果はわからないが、富士宮市内全校に配布しないと認知されない。

・もう少しメディアを活用することは大事だと思う。市の広報誌に掲載依頼は行っている。

(委員) 「これまでの運営の課題等を踏まえ、こんな取組をしていく」という基本方針や考え方を伺いたい。また、引きこもりやニート対象のキャンプを実施するという提案があったが、今後の展望をどう考えているか教えていただきたい。

(申請者) ・基本的には朝霧の自然を最大限に活用しながら、野外活動指導者の集団であるキャンプ協会のノウハウを使ってできることをやっていこうと考えている。

・色々な対象の方々に対し、社会課題に対応した事業は必ずやっていく必要はあると考えている。

・不登校、引きこもりの青少年対象の事業は、もともと県の青少年課と静岡県キャンプカウンセラー協会と一緒に実施してきた事業でそれを今も引き続き実施している。不登校、引きこもりの青少年に一定の機会を提供しているという点では、成果があったのではないかと思っている。引き続き重要な取組として、やっていきたいと考えている。

・キャンプ協会の大きな課題の一つとして、野外活動の安全がある。ナビゲーションの事業を通して、参加者にはリスクマネジメントについて伝えてきた。今後は、利用団体に野外活動のリスクマネジメントについてどうやって伝えていくかが課題だと認識している。

・ネット依存などの新しい課題については不登校や引きこもりの問題が重なっているため、その大きな問題の中でやっていきたい。

(委員) 経常収益から経常費用を引いた利益が4年間で3年間マイナスになっている。売上に関して、4年間で、基本的には減っている傾向にある。この点についての説明と対策を伺いたい。また、売上が減少している中、役員報酬が増えているのはなぜか。

(申請者) ・少子高齢化で会員数の減少が続き、規模が縮小している。対応の一つとして、事業計画にも掲載してある「教員免許状更新講習」という新しい事業を加えて、団体の維持を図っていきたい。現状では、規模は縮小しているが、そこを食い止めつつ、新たな展開を考えている。

・役員改選に伴う臨時役員会が開催されたため、役員報酬は増加している。

(委員) 組織体制の関係と個人情報保護についてを質問する。所長が非常勤になっていることは、運営上問題はないのか。特に、事故発生時では所長を本部長とする安全対策本部を速やかに立ち上げるとなっているが、これは本当に可能なのか。また、データへのアクセスについてはパスワード等を使ってのアクセス制限とあるが、

データそのものを持ち出すことはできてしまうのか。

(申請者) ・昨年度までは所長は非常勤で遠方在住。今年度は所長は常勤だが副所長を兼務している。来年度は富士地区在住の方を所長とし、何かあればすぐに来れるような体制をとる。昨年度までも所長は非常勤が対応してきたので、大丈夫だと考えている。

・個人情報保護については、ルールでは持ち出し禁止になっているが、システム上USBにコピーできないようにはなっておらず、職員の良識に任せている状態である。所長と事業課長で適正にチェックしている。

・限られた者しかアクセスできない上に、事務室は小さく、目が行き届く範囲でもあり、夜間は機械警備もかけているので、基本的には持ち出されることはないと考えている。

(委員) 個人情報保護については、物理的に持ち出せないような仕組みにさせていただきたいと思う。また、組織体制については、利用者が多い場合、職員は手一杯でやっているということなので、トップの方がきちんと常駐をして職員に適切な指示をするというのが本来の体制の在り方ではないかと思う。そのあたりも含めて改善の必要があると考える。

(委員長) 経費縮減について1つ質問をする。野外活動推進の施設ということで、この温暖化の社会の中で、持続可能な社会作りについて先頭を切っていくことは大事だと考える。太陽光発電を採用する、再生可能エネルギーを作っていくというような経費削減のような発想も持てると野外活動を推進していくという理念と合致し、すごく魅力になっていくと思うが、そのようなことを考えているか。

(申請者) ・施設側が単独でやるのは難しい。社会教育課に要望していき、長寿命化計画の中に組み込んでいただければと思う。

・独自性のある提案として、「総合的学習の時間の4分の1までであれば、社会教育施設でも授業時間として扱うことができる」とことと「自然体験活動も学校の年間計画に位置付けができてくれば教科として単位として扱うことができる」ことを今後5年間で検討ができればと思っている。そうすれば、学校の先生方の多忙化も解消される。そして、施設も使っただけ、双方がwin-winでできると思っている。

## — ヒアリング終了・採点 —

[ヒアリング後の採点結果]

74.0点

## — 協 議 —

(委員長) 各委員のみなさんからご意見をいただきたい。

(委員) 本館棟を利用しながら、キャンプファイヤーができるという学校の希望を聞いてくれるのは、学校としては非常にありがたいと思う。しかし、多くの学校がそのような利用の仕方をしたときに、キャンプ場を利用する団体に対して、平等と

いう点で矛盾が生じないかと感じた。また、特別支援とか不登校、引きこもりの青少年への対応は有効だと思ったが、まだ実績が少なく、実現していくための対策をもう少し具体的に聞きたかった。所長が非常勤という点は、学校としては安全、安心を第一に考えるので、今までは非常勤で対応できたというだけの説明では不安は払拭できなかった。

(委員) 所長が非常勤という点について、十分な説明はなかったので評価を下げさせてもらった。基本的に、今までと変わらない雰囲気が見えて、具体的な回答が多くなかったように感じた。利益が減少していることは認識していたが、対応策は弱いと思った。

(委員) プレゼンやヒアリングで疑問が払拭されたわけではない。所長が非常勤という組織体制について、今までは大きな災害等が起こっていないのでやってこれたと思うが、いつ災害があるかわからないという中で、きちんとした体制をとってほしいという点で減点した。

(委員) 事業計画について、新しい展開の話もあり、少しずつだが意欲を感じられた点は評価できた。一方、所長が非常勤という点について明確な説明がなく、組織体制を不安に感じた。

(委員長) 所長の非常勤の件や財務諸表の質問など、明確な回答はなく、もう少し具体的な示し方があった方がよかったと感じた。しかし、今までの実績、経験を使って、次に展開していこうという姿が見えた点は評価できる。また、県から預かっている施設を活用しなくてはという指定管理者としての使命を感じた一方で、自分たちのやりたいことと指定管理者としてやらなくてはならないという立場との葛藤みたいなものもあると感じた。

(委員) 社会教育課では、施設の有効利用という観点から、キャンプ場やスケート場を活用した取組をお願いしているが、老朽化により維持補修が必要になっている。また、太陽光発電は財政的な問題もあり、すぐには実現が難しい。施設の今後の方向性については、社会教育課と連携して整理していく必要があると思っている。

(委員長) 基本方針や目指すべきものは間違っていない。具現化していく中で県と協議を続けてよい答えを出していけるとよい。県と指定管理者との間でよい意味での緊張感が生まれて、次のステップに進むことを期待したい。

(委員) 「総合的な学習の時間の学校外の学習活動」について、2020年度以降検討していくと提案されたが、実現化するのであれば、学校に入って計画を立てていかないと難しい。教育委員会とも話し合っ、徐々に進めていかないと、実現化にはハードルが高いと感じた。

(委員長) 地域学校協働本部のメンバーに朝霧自体が入り、そこから具体の提案をしたり、周辺市町へ個別にアプローチしたりしないといけないと思う。学校にお願いに行くのであれば、次年度の編成の前に「朝霧としてこういう取組を考えている」という方策を持っていかないと、提案だけで終わってしまう可能性がある。

(委員長) 意見交換が充分ということであれば、点数の修正に入ってもよいか。採点が終わったら、事務局が回収するので、終わった方から挙手をお願いします。

—採点結果—

[修正後の採点結果の発表]

76.1点（実績評価による加点3点を含む）

（委員長）今、最終得点が発表された。何か意見はあるか。

（各委員）特になし。

（委員長）朝霧に限らず、施設の老朽化に伴って公的施設としてどういうものがこれから必要かということで、今、社会教育施設は岐路に立っていると思う。県と指定管理者が共に、社会一般に対し、施設存続の必要性をアピールしていく必要がある。現指定管理者は、今までの内容や実績も今後の意欲も決して低いとは思っていない。施設存続の必要性を鑑みたときに、施設をアピールする意欲的な取組を期待したい。県から預かった施設を最大限活用しなければという使命は感じたので、県と情報共有を図り、よりよい運営が今後も続いていくように望みたいと思う。

（委員長）その他皆さんから意見はあるか。よろしいか。それでは、日本キャンプ協会グループを朝霧野外活動センターの指定管理者候補者に選定したいと思うが、よろしいか。

（各委員）異議なし。

（委員長）それでは、日本キャンプ協会グループを朝霧野外活動センターの指定管理者候補者とする。これですべて協議事項が終了したので、進行を事務局にお返しする。

— 課長挨拶 —

— 閉 会 —